

## ＜家族への支援の視点が必要な事例＞

### ■事例演習の達成目標

- ①家族への支援の視点が必要な事例への指導実践を行うにあたり、主任介護支援専門員として常に自己覚知を心がけ、専門職としての価値・知識・技術の指導ができる
- ②家族への支援の根拠を明確にし、多様な家族形態に合わせた利用者支援が組み立てられるように指導ができる
- ③家族へのエンパワメントを活用した利用者支援がおこなえるように指導ができる
- ④利用者と家族と地域の相互作用を包括的に捉え、地域支援につなげることができるように指導ができる
- ⑤家族への支援の視点が必要な事例への指導実践を通し、主任介護支援専門員自身が地域課題を抽出できる視点を持つことができる

### ■事例を選定する際の視点

#### ■家族への支援の視点を取り入れて利用者本人の支援を考えた指導事例

- ①家族の介護離職を回避できた指導事例
- ②家族が介護離職して利用者を支えている指導事例
- ③利用者本人の生活のしづらさが家族との関係から生じている指導事例
- ④家族歴が本人の今の生活に影響を与えている指導事例
- ⑤家族や利用者のエンパワメントを活用できた指導事例
- ⑥地域との関係が家族と利用者を支えた指導事例
- ⑦主介護者が複数の要介護者を介護している指導事例
- ⑧主介護者が介護と育児を担っているような指導事例

### ■提出する事例を上記の指定された類型とする理由

#### 記入例：

- ① 家族の介護離職の回避及び⑤家族や利用者のエンパワメントを活用する視点を指導した事例  
事例の概要及び指導の内容：

利用者と主介護者である実の娘、娘婿が同居。娘夫婦はともに就労。孫は2人ですでに独立しており、一人は近くに住んでいる。今回、利用者の心身状態に変化があり、介護量が増した。これまでは、通所介護の利用と娘一人の世話で生活が維持できていたが、介護量が増したため娘の疲労が目立つようになってきた。夫や孫の協力が必要になるが、近隣に住む孫娘にはひ孫が生まれ協力が求めにくい状況となっている。夫は非協力的。このような状況の中で、利用者の区分変更申請の妥当性や、家族と利用者の支援体制の調整などにおいて介護支援専門員への指導をおこなった事例。